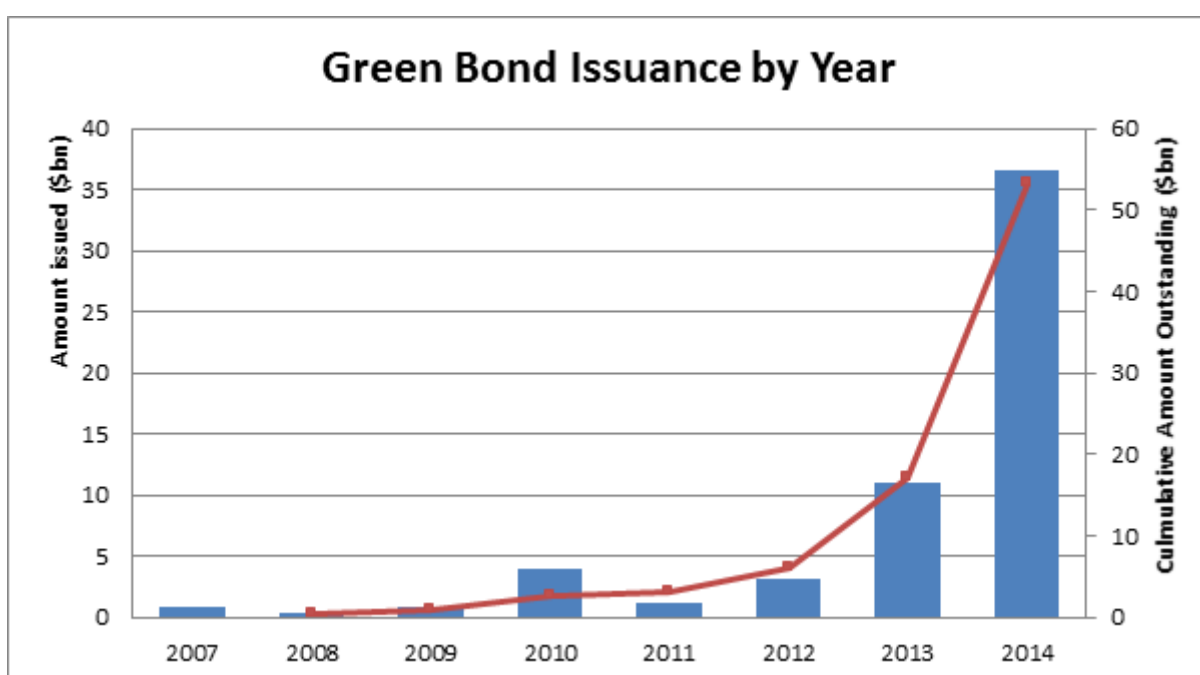


2014年のグリーンボンド発行額は366億ドル

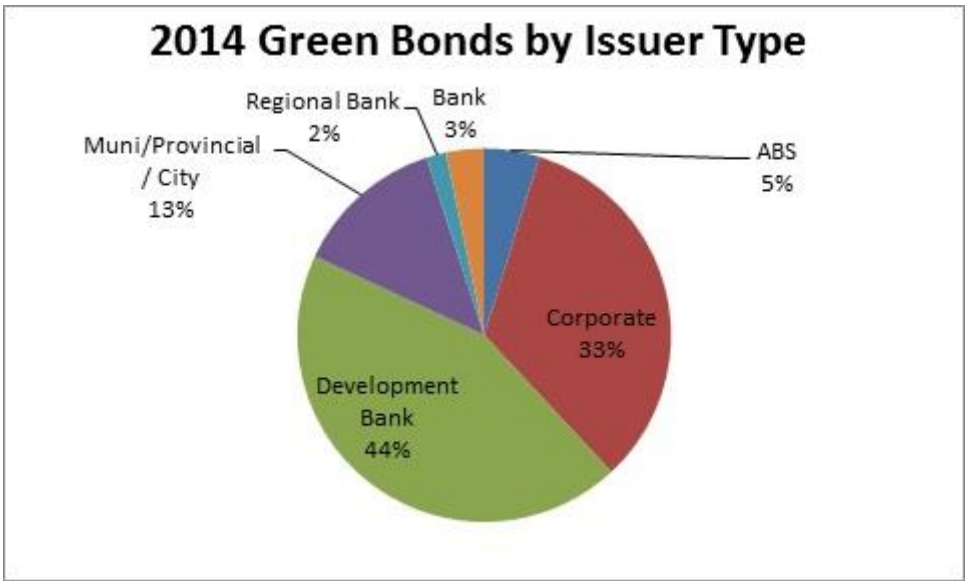
前年比3倍で史上最大。社債・地方債が拡大を牽引。

グリーンボンドの歴史的な転換点となった2013年に続き、2014年にラベル付きのグリーンボンド市場は再度急成長した。366億ドル(約4兆4,000億円)のグリーンボンドが73の発行体により起債され、市場規模は前年の3倍以上に拡大した。相次ぐグリーン地方債の発行が最終的な額を大きく押し上げた。



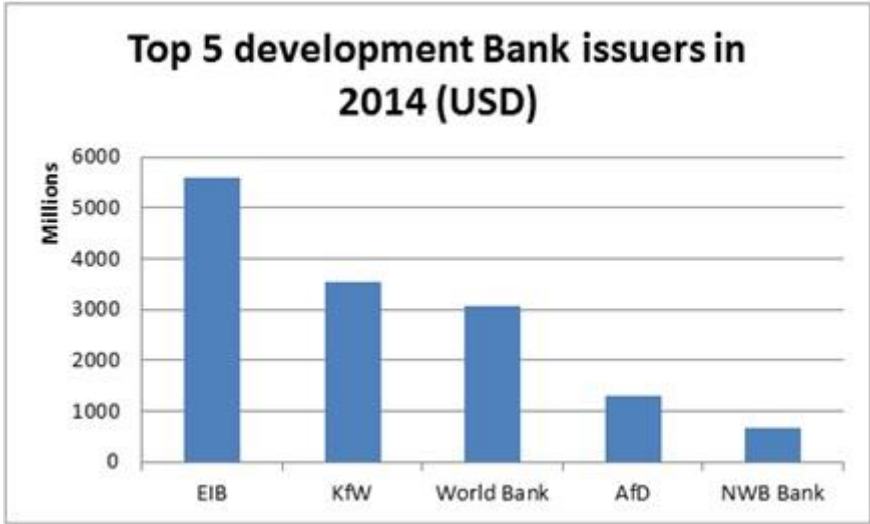
発行済みのグリーンボンドは2014年末現在で532億ドル(約6兆4,000億円)となった。

起債額急増の背景にはこれまでの国際金融機関からの起債が継続していることに加え、企業や地方自治体の起債市場参入がある。発行体タイプ別の詳細は以下の通りである。



国際金融機関は引き続きグリーンボンド起債市場をリード、2014 年最大の発行体は EIB (欧州投資銀行, European Investment Bank)

国際金融機関は 2014 年のグリーンボンド起債市場の 44%(約 160 億ドル、約 1 兆 9,000 億円)を占めた。これらは大きく新規参入と既存の発行体に分かれる。既存の発行体とは先述の EIB に加え、EBRD(欧州復興開発銀行, European Bank for Reconstruction and Development)、世界銀行(世銀)、IFC(国際金融公社, International Finance Corporation)である。



新規参入したのは主に国内の開発銀行でグリーンボンド市場への参入タイミングを伺っていた機関である。これらには KfW(ドイツ復興金融公庫)、AFD(フランス開発庁)、NWB Bank(オランダ水道銀行)等が含まれる。

既存の発行体でも発行条件の多様化が見られた。世銀は個人投資家向けグリーンボンドを相次ぎ発行、また発行通貨も新たに6つ増やし投資家層の拡大を図っている。EIBは引き続き多くのグリーンボンド(同機関では気候認識債(Climate Awareness Bonds)と呼称)を発行し続けており、額では56億ドル(約6,700億円)と2014年最大の発行体となった。

Overall top 10 green bond issuers of the year (by amount issued in USD):

Issuer	2014
European Investment Bank (EIB)	\$5.6bn
KfW	\$3.5bn
GDF Suez	\$3.4bn
World Bank	\$3.1bn
Toyota	\$1.75bn
AfD	\$1.3bn
Iberdrola	\$1bn
Unibail-Rodamco	\$1bn
Ile de France	\$829m
Hera SPA	\$680m

トヨタが初のグリーン資産担保債権を発行

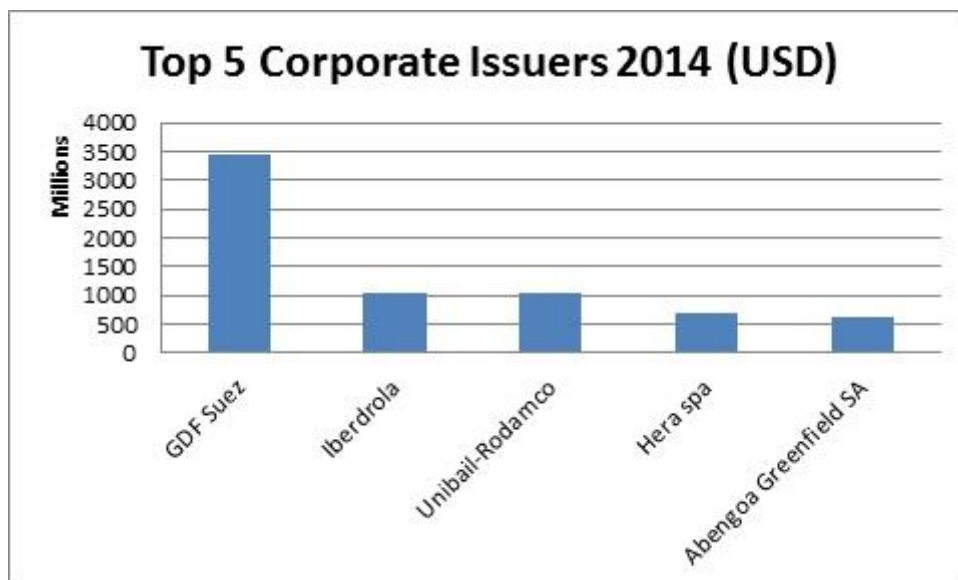
トヨタは3月に17.5億ドル(約1,800億円)のグリーン資産担保債券を発行した。これはレンタカーや自動車ローンを原資にした債券がエコカーの発展に割り当てられる先進事例となった。

グリーン社債はグリーンボンド市場拡大の起爆剤に

グリーン社債の発行はグリーンボンド市場をさらに深化させた。企業による発行が120億ドル(約1兆4,000億円)に上っただけでなく、多様な通貨での発行が市場の流動性改善に貢献している。

最大の案件はフランスの公益企業GDF Suezによる34億ドル(約3,500億円)の発行で、主に再生可能エネルギーや省エネ事業に割り当てられる。

公社債市場が成熟するにつれて、より低格付け、高利回りの債券も発行されるようになった。例えば再生可能エネルギープロジェクトを手掛ける NRG Yield(ムーディーズ Bb1)や再生可能エネルギー・水処理等を手掛ける Abengoa Greenfield SA(S&P B)のグリーンボンドがそれぞれ 8 月、9 月に発行された。



銀行の環境ローンの債券化が 12 億ドル(約億円)に上る

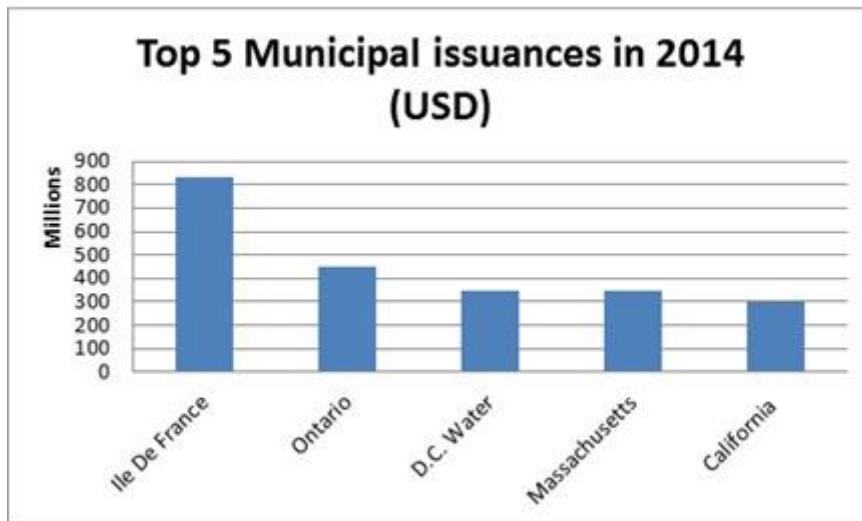
例えばフランスの金融機関クレディ・アグリコル CIB は自身の環境ローンを基に 4 億 7,800 万ドル(約 572 億円)のグリーンボンドを日本の投資家向けに発行した。これは銀行が環境プロジェクトや発行体と融資を結びつける画期的な取り組みである。

ドイツの地方銀行 NRW が外部認証を求めることを発表したほか、オーストラリアの大手銀行 NAB (National Australia Bank)が Climate Bond Standard 認証に基づいたグリーンボンド発行を目指すとしたことも注目したい。

米国のグリーン地方債がグリーンボンド発行総額の 12%を占める

グリーン地方債は年央のイエーテポリ(スウェーデン)、ヨハネスブルグ(南アフリカ)による起債で、人気を博した。イエーテポリはグリーン地方債発行の先駆者で追加発行した一方、ヨハネスブルグは初の発行で、新興市場でグリーンボンドがどのように機能するかを示す案件となった。

一方 2014 年上半期には北フランスの一地方イル・ド・フランス(Ile de France)が 8 億 5,000 万ユーロ(13 億ドル、約 1,300 億円)を発行した。米国オンタリオ州他 11 州が様々な用途のグリーンボンドを発行したことでより市場は活気づいた。



Ending the year on a high

ラベルなしのグリーンプロジェクト債・グリーンABS(資産担保証券, asset backed securities)にも注目

ブルームバーグ・ニュー・エナジー・ファイナンスは2014年のグリーンボンド発行総額は380億ドル(約4兆5,500億円)と発表したが、これにはラベルなしのグリーンABS・グリーンプロジェクト債が含まれている。もしClimate Bonds Initiative(CBI)のプロジェクト債リスト(25億ドル、約3,000億円)を加えると、総額は390億ドル(約4兆7,000億円)になる。これは我々が当初予想した400億ドルにかなり近い数字である。

この総額の相違はデータ集計の相違によるものである。CBIはブルームバーグでの公表日を基にこの2014年総額を集計した。

以下がラベルなしのグリーンプロジェクト債・グリーンABSのトップ5である。

Issuer	Amount issued – Project Bonds or ABS
Wind Energy Transmission	\$490m
XINGY 2014-2 A	CNY 2.76bn (\$450m)
AVR Afvalverwerking BV	EUR 300m (\$374m)
Northland Power	CA\$ 232m (\$206m)
CGN Wind Energy Ltd	CNY 1bn (\$160m)

今年 2015 年は同様のペースでの市場拡大を予想し、年末までに 1,000 億ドル(約 12 兆円)のグリーンボンド発行を予想する。

注記:

- 為替は発行日の終値を参照。
- 発行が該当期間の最初もしくは最後に行なわれているが、ブルームバーグで記載されている公表日ベースで集計している。
- 同様の債券の追加発行がある場合は、追加発行の公表日に基づき集計。
- 366 億ドルはラベル付きのグリーンボンドの総額である。すなわちこれらは発行体自ら公表資料や債券の目論見書等でグリーンとしてラベル付けしたものである。